

# アジアから学ぶ 中国ビジネス

文・写真：須賀努〜コラムニスト、アジアンウオッチャー。寺子屋チャイナ主宰 [www.yyisland.com.yy/terakoyachina](http://www.yyisland.com.yy/terakoyachina)

撮影：佐渡多真子



すでに完成が近くづく珠海横琴新区のマカオ大学

## 第2回

# 深圳前海合作区の 投資スピード

先日香港で開催された前海合作区の投資説明会に出席した。

前海と言えば、珠海の横琴と並び、数年前から注目される新特区であり、最近では人民元のクロスボーダー融資も解禁になるなど、ニュースには事欠かない。

すでに基礎工事は始まっており、今年から本格的にオフィスビルの建設も始まるという。だが、前海管理局の説明で分かったことは、横琴などと比べて面積が相当に狭く、金融、現代物流など誘致分野が限られていること、そしてどんな企業が特区に会社を設立でき、どんな企業が税金などの優遇政策を受けられるか、その一般的な基準はまだ発表されていないということだった。

が、中央の大型国有企業と大手民間企業。恐らくは銀行など金融業と、プライベートエクイティなどのファンドが中心だと思われる。彼らは投資基準がない中、またメリットが何処まで享受できるかもわからないなか、管理局と交渉して会社を作っている。いかに中国流のやり方だ。

一部外資系企業の投資も始まっているとの説明だったが、その多くは香港企業または香港経由だと推測される。管理局の責任者も「一般の外資系企業が現状において投資を決定することが難しいことは理解している」としたうえで、「それでも中国系、香港系は状況が曖昧でも、チャンスがあると見れば、直ぐに決断してくる」という。

先ずチャンスは率先して掴み、その後状況を判断する、という手法。当然様々な情報を収集し、加味しながらも、最後は大胆なトックダウンで決める。

筆者は前海や横琴の特区構想は、香港、マカオと中国がともに発展するという表向きモデルとは別に、中国政府が現時点で最重要と位置付ける対台湾政策があると思っている。もしそれが正しければ、香港と前海の共同発展は必須であり、この特区は当面の間、失敗は許されず、大枠でいえば中央の支持を受け続けることになる。

その証拠に、就任後間もない習近平総書記が広東省を訪問した際、この2つの特区も訪れ、その後企業誘致活動が活発化した。総書記が出した指示は「国内外の企業誘致を更に推進しろ」ということだったらしいが、前海の外資誘致目標が昨年実績の21億米ドルに対して、今年は70億ドルと3倍以上に引き上げられたとの話もあり、誘致担当者は旧正月明け早々から休みなく、各所を廻って誘致活動を精力的にこなしているが、相当に厳しいハードルであることを認めている。

相手が困っている時に、手を差し伸べることは、交渉を有利に進める絶好の機会だが、書面による確かな法令法規を絶対とする日本企業にとってはまさに高いハードルだといえる。ある程度リスクは取らざるを得ない場合、香港人らと手を組み、その不確かさの最少でも情報の精度を上げ、成功に期待するのも1つの検討材料だろう。

毎週、本誌がお手元まで確実に届く、定期購読（有料）/1年間・360元〜をお勧めします。

ホームページからお申し込みください

小社直送にて購読をご希望の方は、  
TEL: +86-755-8351-6250 または  
E-mail: [pub-manager@kanan.cn](mailto:pub-manager@kanan.cn)  
(発行局宛)へ。クーリエにて毎月配送いたします。  
<http://www.kanan.cn/upimg/youliao.pdf>

【日系企業の文化・習慣を学びたい  
中国人社員にも人気です】



**HKM**